

日本特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

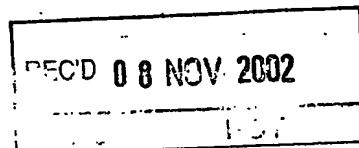
12.09.02

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日
Date of Application:

2002年 7月31日



出願番号
Application Number:

特願2002-224234

[ST.10/C]:

[JP2002-224234]

出願人
Applicant(s):

株式会社メンテック

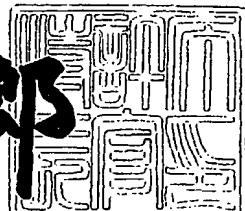
BEST AVAILABLE COPY

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2002年10月22日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2002-3082994

【書類名】 特許願
【整理番号】 PMT0204032
【提出日】 平成14年 7月31日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 B05B 07/00
【発明者】
【住所又は居所】 東京都豊島区長崎1丁目28番14号 株式会社メンテック内
【氏名】 関谷 宏
【特許出願人】
【識別番号】 594020802
【氏名又は名称】 株式会社メンテック
【代理人】
【識別番号】 100103805
【弁理士】
【氏名又は名称】 白崎 真二
【電話番号】 03-5291-5578
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 065021
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9803070
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 液体吹付付与装置、それを使用した液体の吹き付け付与方法
、及び薬液

【特許請求の範囲】

【請求項1】 走行体に対して液体を吹き付けて付与する液体吹付付与装置であつて、液体を噴霧するための噴霧ノズルと、気流を噴射するための気流噴射口とを備え、該噴霧ノズルから噴霧された液体に対して、該気流噴射口から気流を噴射し、噴霧された液体を該気流で加速して走行体に吹き付けることができるよう噴霧ノズル及び気流噴射口が配置されていることを特徴とする液体吹付付与装置。

【請求項2】 走行体に対して液体を吹き付けて付与する液体吹付付与装置であつて、液体を噴霧するための噴霧ノズルを備えたスプレー管と、気流を噴射するための気流噴射口を備えたエアボックスとを備え、該噴霧ノズルから噴霧された液体に対して、該気流噴射口から気流を噴射し、噴霧された液体を該気流で加速して走行体に吹き付けることができるようスプレー管及びエアボックスが配置されていることを特徴とする液体吹付付与装置。

【請求項3】 前記エアボックスは、外壁と該外壁内に支持片を介して取り付けられたエアパイプとを備えることを特徴とする請求項2記載の液体吹付付与装置。

【請求項4】 前記エアパイプは、その管壁のうち外壁に設けられた気流噴射口とは反対側の位置に貫通した穴が複数形成されていることを特徴とする請求項3記載の液体吹付付与装置。

【請求項5】 前記スプレー管は、走行体の幅方向に一定間隔をおいて並設された複数の噴霧ノズルを備えることを特徴とする請求項2記載の液体吹付付与装置。

【請求項6】 前記スプレー管は、噴霧ノズルに液体を送るための液送管、圧搾空気を送るための気送管、及び該気送管内の圧搾空気の圧力を均一にするための圧調整管を備えることを特徴とする請求項5記載の液体吹付付与装置。

【請求項7】 前記スプレー管は、更に液送管内の液体の圧力を均一にするた

めの圧調整管を備えることを特徴とする請求項6記載の液体吹付付与装置。

【請求項8】 前記スプレー管は、間隔を開けてエアボックスに固定されていことを特徴とする請求項2記載の液体吹付付与装置。

【請求項9】 前記噴霧ノズルは、スプレーパターンがフラットであり、スプレー管に対して互いに傾斜させた状態に固定することを特徴とする請求項5記載の液体吹付付与装置。

【請求項10】 前記スプレー管は、エアボックスに嵌め込んで固定することを特徴とする請求項2記載の液体吹付付与装置。

【請求項11】 前記スプレー管は、1つの噴霧ノズルを備え、走行体の幅方向に往復移動しながら液体を吹き付け付与することを特徴とする請求項2記載の液体吹付付与装置。

【請求項12】 前記走行体は、抄紙機又は加工機を移動する紙体であることを特徴とする請求項1記載の液体吹付付与装置。

【請求項13】 前記走行体は、抄紙機内又は加工機内で回転し又は循環する部材であることを特徴とする請求項1記載の液体吹付付与装置。

【請求項14】 前記請求項1記載の液体吹付付与装置を使用して走行体に液体を吹き付け付与する液体の吹き付け付与方法。

【請求項15】 前記請求項14記載の液体の吹き付け付与方法に使用される薬液。

【請求項16】 前記薬液は、汚染防止剤、ダステイング防止剤、ピッチコントロール剤、離型剤、接着剤、表面修正剤、洗浄剤、紙力増強剤、サイズ剤、歩留向上剤、撥水剤、撥油剤、防滑剤、滑剤、柔軟剤、温潤剤のうちの1つ又は2つ以上を組み合わせたものであることを特徴とする請求項15記載の薬液。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、高速で走行する物体に対する液体吹付付与装置に関し、更に詳しくは、抄紙機等によって高速で移動する紙体、及び抄紙機等におけるドライヤロール、プレスロール等のロール類、カンバス、ワイヤ等の部材に対して確実に液体

を付与する液体吹付付与装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来より、紙力増強や多層板紙の抄造などのために、抄紙機内を移動する紙体に対して、紙力増強剤や層間接着剤等の液体が付与されてきた。

また、抄紙機のワイヤやフェルト、ドライヤロール、カンバス等の部材に対しても、紙体からパルプ原料由来の異物が転移するのを防止したり、紙離れを向上させる等の目的で、汚染防止剤や離型剤等の薬液が付与されている。

【0003】

近年、特に古紙等の再生利用が盛んになり、紙力増強剤等を吹き付け付与する必要性が高まっている。

また、古紙の配合比が高くなるほど、原料中に持ち込まれるホットメルト系のガム・ピッチや古紙パルプ（DIP）からくるカーボン・酢酸ビニル系等の異物が増えるため、ワイヤやフェルト、ドライヤロール、カンバス等の部材の汚れが増え、製品欠点の増加や操業性の低下の原因となっている。

このため、これらの部材への洗浄剤やピッチコントロール剤、汚染防止剤、離型剤等の付与が欠かせない状況になっている。

【0004】

上記の各種液体は、抄紙機が稼動している状態で、即ち、回転しているドライヤロール等のロール類や抄紙機内を循環しているカンバスやワイヤ等に対して、又はこれらの部材に搬送されて抄紙機内を移動している紙体に対して、ノズルから噴霧（散布）されて付与されるのが一般的である（本明細書においては、このように回転し、循環し又は移動する紙体や部材を総称して走行体という）。

【0005】

しかし、高速で運動する走行体の表面付近には、その動きに沿って空気の流れ（以下表面流という）が生じるため、このような走行体に噴霧された液体が下流側に巻き上げられる現象が起こる。

このような現象のため液体が巻き上げられた分、紙体等への液体の付与量が減り、歩留まりが悪化する。

また、巻き上げられた液体はフレームやフード等に付着して抄紙機を汚染したり、フード等の表面で結露して紙体上に落下したり、紙製品の品質を低下させる等のトラブルを生じる。

【0006】

こうした液体の巻き上がりを防止するための装置として、本発明者は既に、液体（流体）の噴出用ノズルの上流側と下流側にエアカーテンを形成し、その間の空間で液体を噴霧する流体散布用流体飛散防止装置（実開平1-152762号公報参照）を提案した（図10参照）。

【0007】

この装置100は、噴出用ノズル102の前後2つのエアカーテン103により、走行体105（この場合進行方向は矢印104の方向）の表面付近の表面流を遮断することで、走行体105への液体101の安定した吹き付けを得ることを意図したものである。

この装置によれば、抄速が比較的低速であった従来の抄紙機においては、ほとんどの液体101が走行体105に到達し、上記問題点を解消することが可能であった。

【0008】

しかし、最近、抄紙機の抄速は非常に高速化し、今や1500m/分や2000m/分の抄速を有するものが出現している。

このような超高速の抄紙機においては、紙体やドライヤロール、カンバス等の走行体周囲の表面流は、風速・風圧ともに極めて強いものとなる。

【0009】

こうした表面流の極めて強い風速・風圧の下では、上記装置のエアカーテンでは必ずしも十分に表面流を遮断し切れない。

そのため、むしろエアカーテンにより走行体の周囲の表面流が大きく搔き乱されて乱気流を生じてしまう。

そのような状態で液体を噴霧すると、かえって液体が下流側に激しく巻き上げられてしまうという問題が発生する場合があった。

【0010】

このように、超高速化した抄紙機の登場により、もはや上記のように表面流を遮断するという手法を用いた装置では、走行体への液体の安定した吹き付け付与は達成し難い状況になりつつある。

しかしその一方で、リサイクル等の観点から、紙原料に対する古紙等の配合比は今後も増加する傾向にある。

【0011】

そのため、紙力の増強、部材への異物の転移防止（汚染防止）、部材からの紙離れの向上等々に対する要求はより厳しくなり、紙体や抄紙機の部材への液体を付与する機会も増える。

従って、上記のような超高速化する抄紙機においても、液体を紙体や部材等の走行体に確実に付与することができる吹き付け付与装置が求められている。

【0012】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、かかる実情を背景に、上記の問題点を克服するためになされたものである。

即ち、本発明の目的は、超高速の抄紙機等においても走行体に対して液体（処理液、薬剤等）を確実に付与することができる液体吹付付与装置を提供することである。

【0013】

【課題を解決するための手段】

かくして、本発明者は、このような課題背景に対して銳意研究を重ねた結果、一旦噴霧ノズルから噴霧された液体を、別の気流噴射口から噴射されたより高速の気流に乗せて加速してから走行体に吹き付けることにより、風速や風圧が大きな表面流の中でも確実に、しかも下流側への巻き上げが抑えられた状態で液体を付与することができることを見出し、この知見に基づいて本発明を完成させたものである。

【0014】

即ち、本発明は、（1）、走行体に対して液体を吹き付けて付与する液体吹付付与装置であって、液体を噴霧するための噴霧ノズルと、気流を噴射するための

気流噴射口とを備え、該噴霧ノズルから噴霧された液体に対して、該気流噴射口から気流を噴射し、噴霧された液体を該気流で加速して走行体に吹き付けることができるよう噴霧ノズル及び気流噴射口が配置されている液体吹付付与装置に存する。

【0015】

そして、(2)、走行体に対して液体を吹き付けて付与する液体吹付付与装置であって、液体を噴霧するための噴霧ノズルを備えたスプレー管と、気流を噴射するための気流噴射口を備えたエアボックスとを備え、該噴霧ノズルから噴霧された液体に対して、該気流噴射口から気流を噴射し、噴霧された液体を該気流で加速して走行体に吹き付けることができるようスプレー管及びエアボックスが配置されている液体吹付付与装置に存する。

【0016】

そしてまた、(3)、前記エアボックスは、外壁と該外壁内に支持片を介して取り付けられたエアパイプとを備える液体吹付付与装置に存する。

【0017】

そしてまた、(4)、前記エアパイプは、その管壁のうち外壁に設けられた気流噴射口とは反対側の位置に貫通した穴が複数形成されている液体吹付付与装置に存する。

【0018】

そしてまた、(5)、前記スプレー管は、走行体の幅方向に一定間隔をおいて並設された複数の噴霧ノズルを備える液体吹付付与装置に存する。

【0019】

そしてまた、(6)、前記スプレー管は、噴霧ノズルに液体を送るための液送管、圧縮空気を送るための気送管、及び該気送管内の圧縮空気の圧力を均一にするための圧調整管を備える液体吹付付与装置に存する。

【0020】

そしてまた、(7)、前記スプレー管は、更に液送管内の液体の圧力を均一にするための圧調整管を備える液体吹付付与装置に存する。

【0021】

そしてまた、(8)、前記スプレー管は、間隔を開けてエアボックスに固定されている液体吹付付与装置に存する。

【0022】

そしてまた、(9)、前記噴霧ノズルは、スプレーパターンがフラットであり、スプレー管に対して互いに傾斜させた状態に固定する液体吹付付与装置に存する。

【0023】

そしてまた、(10)、前記スプレー管は、エアボックスに嵌め込んで固定する液体吹付付与装置に存する。

【0024】

そしてまた、(11)、前記スプレー管は、1つの噴霧ノズルを備え、走行体の幅方向に往復移動しながら液体を吹き付け付与する液体吹付付与装置に存する。

【0025】

そしてまた、(12)、前記走行体は、抄紙機又は加工機を移動する紙体である液体吹付付与装置に存する。

【0026】

そしてまた、(13)、前記走行体は、抄紙機内又は加工機内で回転し又は循環する部材である液体吹付付与装置に存する。

【0027】

そしてまた、(14)、前記(1)の液体吹付付与装置を使用して走行体に液体を吹き付け付与する液体の吹き付け付与方法に存する。

【0028】

そしてまた、(15)、前記(14)の液体の吹き付け付与方法に使用される薬液に存する。

【0029】

そしてまた、(16)、前記薬液は、汚染防止剤、ダスティング防止剤、ピッチコントロール剤、離型剤、接着剤、表面修正剤、洗浄剤、紙力増強剤、サイズ剤、歩留向上剤、撥水剤、撥油剤、防滑剤、滑剤、柔軟剤、潤滑剤のうちの1つ

又は2つ以上を組み合わせたものである薬液に存する。

【0030】

本発明はこの目的に沿ったものであれば、上記1～16の中から選ばれた2つ以上を組み合わせた構成も当然採用可能である。

【0031】

【発明の実施の形態】

以下、図面に基づいて、本発明の液体吹付付与装置についていくつかの好適な実施の形態を挙げて述べる。

【0032】

本発明の液体吹付付与装置は、主として、液体を噴霧するための噴霧ノズルと、噴霧された液体を加速するための気流を噴射する気流噴射口とを備える。

そして、この噴霧ノズルから噴霧された液体に対して、別の気流噴射口から気流を噴射し、噴霧された液体を気流に乗せて加速して走行体に吹き付けることにより、走行体に確実に液体を付与するのである。

【0033】

【第1の実施の形態】

図1は、走行体の幅方向に複数の噴霧ノズルを備える液体吹付付与装置の構成例を示す図であり、(A)に底面図、(B)にX-X断面図を示す。

このタイプの液体吹付付与装置A1は、スプレー管1とエアボックス2とを備える。

【0034】

スプレー管1は、一定間隔をおいて並設された複数の噴霧ノズル11を備える。

本構成例では、噴霧ノズル11として2流体ノズルを使用しているため、スプレー管1は、各噴霧ノズル11に液体を送る液送管12と、圧搾空気を送る気送管13と、該気送管内の圧搾空気の圧力を均一にするための圧調整管14とを備える。

【0035】

本構成例では、スプレー管1は、断面形状が偏平の矩形状に形成された液送管

12、気送管13及び圧調整管14が重ね合わされ溶接されて一体的に形成されている。

液送管12及び気送管13は、スプレー管1の一方の末端に形成された液体注入入口15及び气体注入入口16でそれぞれ液体供給管31及び气体供給管32と連絡しており、外部の薬液タンクやコンプレッサ等（図示しない）から液体や空気の供給を受ける。

【0036】

噴霧ノズル11は、その底部の吸気口が気送管13に、その側面の液体吸入口が液送管12にそれぞれ開口するように、スプレー管1に螺着される。

このような状態で一斉に複数の噴霧ノズル11から液体Lを噴霧すると、気送管13内の圧搾空気の圧力は、スプレー管1の全長方向に圧力勾配を生じる。

即ち、気送管13の全長方向の末端側（气体注入入口16とは反対側の端側）でいわゆる圧損が生じ、液体Lの噴霧量が低下してしまう。

【0037】

こうした不都合を避けるため、本構成例のスプレー管1においては、気送管13と圧調整管14の間の隔壁に穴17が数か所貫通して設けられている。

この穴17を介して気送管13及び圧調整管14の間で空気が通じ合い、極力、気送管13内の圧搾空気の圧力が全長方向で均一になるように、即ち全ての噴霧ノズル11で液体Lの噴霧量がほぼ一定になるように自律的な圧調整が行われるのである。

【0038】

このように、圧調整管14は、気送管13の圧搾空気の圧力を均一にするためのものである。

従って、スプレー管1は、重ね合わされた液送管12及び気送管13の側面に取り付けられてもよい。

また、液送管12内の液体の圧力を均一にする必要がある場合は、例えば、上記の液送管12及び気送管13の側面に取り付けた気送管用の圧調整管とは反対側の側面に更に液送管用の圧調整管を取り付ければよい。

【0039】

エアボックス2は、外壁21と、その内部に噴射気流用の圧搾空気を送るためのエアパイプ22とを備える。

外壁21は、本構成例では断面形状が矩形状の管状構造体であり、1つの稜線に複数の穴が貫通されて気流噴射口23が形成されている。

【0040】

エアパイプ22は、複数の支持片24を介して外壁21の内部に取り付けられ、外壁21とエアパイプ22との間に空間25が連続して形成される。

エアパイプ22の管壁のうち気流噴射口23とは反対側の位置に、貫通した穴26が複数形成されている。

【0041】

エアボックス2には、フランジ33を介して取付パイプ34が取り付けられ、この取り付けにより、エア供給管を兼ねる取付パイプ34とエアボックス2のエアパイプ22とが連結される。

外部のプロワ等（図示しない）から取付パイプ34（エア供給管）を介してエアパイプ22に圧搾空気が送られる。

【0042】

このように形成されたエアボックス2のエアパイプ22に圧搾空気が注入されると、気流噴射口23から気流Bが噴射される。

本構成例では、上記のように穴26が気流噴射口23とは反対側に形成されているため、圧搾空気は穴26から噴き出して空間25を気流噴射口23に向かって【図1（B）の矢印参照】移動する。

【0043】

その間に、圧搾空気は、空間25内をエアボックス2の全長方向、即ち末端側の方向にも移動する。

このようにしてエアボックス内で圧搾空気の圧調整が行われ、エアボックス2のすべての気流噴射口23からの気流Bの噴射量及び噴射速度を均一に且つ一定にすることができるのである。

尚、必要があれば、取付パイプ34とは反対端の取付パイプ34aからも圧搾空気をエアパイプ22内に注入することも適宜行われる。

【0044】

スプレー管1は、エアボックス2の外壁21に取り付けられた複数個のホルダー4に嵌め込まれて固定される。

この際、噴霧ノズル11のノズル口11aがエアボックス2の気流噴射口23に向くように、即ち図1(B)に示したように、ノズル口11aから噴霧した液体Lが気流噴射口23から噴射した気流Bに乗るように、エアボックス2に対してスプレー管1の位置が固定される。

【0045】

さて、以上のように各部材が配置された液体吹付付与装置A1によれば、噴霧ノズル11のノズル口11aから噴霧された液体Lに対して、気流噴射口23から気流Bを噴射する状態となる。

こうすることにより、液体Lは、流速の大きな気流Bによって加速され、より大きな運動量をもって走行体の表面に吹き付け付与されるのである。

【0046】

抄紙機等においては、紙体の乾燥不良や薬剤の過剰付着を避けるため、走行体に噴霧される液体（汚染防止剤や離型剤等）の量は、通常、少量に抑えられる。

そのため、噴霧ノズル11としては、少量散布に適し散布量を調整し易い2流体ノズルが使用されることが多い。

しかし、2流体ノズルにより噴霧された液体は、一般に、大量噴霧に適した1流体ノズルの場合と比較して、液体が走行体に到達する際のインパクト（運動量）が弱く、走行体の表面流によって容易に下流側に巻き上げられる。

【0047】

本発明の液体吹付付与装置A1によれば、こうした元々弱いインパクト（小さな運動量）しか持たない噴霧液体Lを、気流Bで加速して、大きなインパクトをもつようになることができる（加速効果）。

そのため、従来、超高速の抄紙機等に対してインパクトが弱すぎて使用できなかつたノズルでも、本発明の液体吹付付与装置に使用すれば、液体を巻き上げられることなく走行体に確実に到達させることができるのである。

【0048】

また、噴霧ノズルで液体を噴霧すると、そのスプレーパターンの周囲に液体のミストが舞い上がる場合がある。

しかし、本発明の液体吹付付与装置A1を用いれば、こうしたミストの舞い上がりを抑えることも可能となる。

図2は、液体吹付付与装置A1がミストの舞い上がりを抑える状態を示す模式図である。

【0049】

このように、噴霧ノズルから噴霧された液体Lのスプレーパターンから離脱し舞い上がろうとするミストmをも気流Bが有効に捕獲し、加速して走行体Rの表面に吹き付ける。

そのため、液体L（液体ミストmを含む）の巻き上げがほぼ完全に抑えられ、液体Lのほぼ全量を有効に走行体Rに付与することが可能となるのである。

【0050】

因みに、以上、噴霧ノズル11が2流体ノズルである場合について主に述べてきたが、噴霧ノズル11として1流体ノズルを使用することも当然可能であり、その場合も、上記の2流体ノズルの場合と同様の加速効果が発揮される。

また、噴霧ノズル11は特別仕様のものである必要はなく、通常の1流体ノズルや2流体ノズル等の中から液体の付与量等を考慮して適宜選択すればよい。

スプレー管1の構造に関しても、必要があれば噴霧ノズル11の種類や構造に合わせて適宜変更されることは言うまでもない。

【0051】

尚、本発明の液体吹付付与装置A1において、スプレー管1とエアボックス2とを密着した状態に固定すると、液体Lでスプレー管1やエアボックス2等が汚染されることがある【図3（A）参照】。

これは、両者を密着固定させたため、気流Bの随伴気流Tがスプレー管側で乱れて弱くなり（同図の点線矢印T参照）、ミストmの一部がスプレー管1やエアボックス2の方に回り込んでしまうためと考えられる。

【0052】

一方、図3（B）に示すように、スプレー管1とエアボックス2とをある程度

間隔を開けて固定すると、両者の間を随伴気流T1が流れることが可能になり、ミスト皿の付着を阻止できる。

実験によれば、両者の間隔を2mm以上開ければ、有効に随伴気流T1が流れ、効果的にミスト皿の付着を阻止できることが分かっている。

【0053】

さて、本構成例の液体吹付付与装置A1を用いて紙体に液体を吹き付け付与している状態を図4に示す（実際には装置A1はもっと長い場合が多い）。

液体Lは、スプレー管1の噴霧ノズル11から噴霧された後、気流噴射口23から噴射された気流により加速されて進行方向を変えるため、途中で折れ曲がったような軌跡を描いて走行体Rに吹き付け付与される。

【0054】

この際、隣接する噴霧ノズルから噴霧された液体L同士が衝突しないように、噴霧ノズル11は、スプレーパターンがフラット（扇形）のものを用い、図5に示すようにスプレー管1に対して互いに傾斜させた状態に固定すると好ましい。

実験から、スプレー管1の長手方向の中心に対する液体Lの噴霧角度（図5中のθ）を15°程度傾けると液体L同士の衝突を避けられ、走行体に対してムラなく吹き付け付与できることが分かっている。

【0055】

参考までに、液体吹付付与装置A1を使用して走行体Rに液体Lを吹き付け付与する液体の吹き付け付与方法の特徴は、図4に示したように、噴霧ノズル11から噴霧された液体Lに対して、気流噴射口23から気流を噴射し、噴霧された液体Lを気流で加速して走行体Rに吹き付ける点にある。

【0056】

図に示したように、本構成例の液体吹付付与装置A1のスプレー管1は、走行体R（この例では紙体）の幅方向に一定間隔をおいて並設された複数の噴霧ノズル11を備える。

そのため、装置A1は、走行体Rの表面全体に比較的多量の液体L（即ち薬液）を同時に吹き付け付与する場合に適している。

【0057】

こうした液体の吹き付け付与方法は、先述したように、汚染防止剤や離型剤、洗浄剤等をカンバスやプレスロール、ワイヤ、フェルト等に吹き付け付与する場合に使用できる。

離型剤や接着剤等をヤンキードライヤに吹き付け付与する場合にも、有効に機能を発揮する。

また、ピッチコントロール剤を、ワイヤやフェルト、プレスロール等に吹き付けることも当然可能である。

【0058】

本発明によれば、薬液を高速で走行中の紙体に対して吹き付け付与することも効果的に行うことができる。

例えば、上記ピッチコントロール剤を、直接紙体に吹き付け付与することも可能である。

【0059】

また、抄紙機のワイヤパートやプレスパート等で紙体に対して紙力増強剤やサイズ剤、歩留向上剤等の薬液を効果的に吹き付け付与することができる。

多層板紙等の抄紙のために、抄紙機内を移動する紙体に対する層間接着剤の吹き付け付与にも適する。

【0060】

一方、抄紙機以外でも、例えば、コルゲータにおいて、ワックス滑剤をロールに吹き付けてロールを介して中芯原紙に付与したり、ロール等を介してライナーに撥水剤や撥油剤、防滑剤、静電防止剤等を付与することも可能となる。

また、紙体の加工機や加温機において紙体に柔軟剤や温潤剤、抗菌剤、香料、染料・顔料、水分等を付与する場合にも使用できる。

更には、半導体の製造装置等、各種製品の製造装置内を走行する半製品に対して薬剤等の液体を噴霧する場合や、走行する対象に対して塗料を吹き付ける場合等にも、この液体吹付付与装置は有効にその機能を発揮し得る。

【0061】

〔第2の実施の形態〕

先述したように、抄紙機等は近年益々高速化しているが、同時に、装置全体が

コンパクト化し、各部材や紙体の間隔が狭まる傾向にもある。

そのため、液体吹付付与装置をよりコンパクトにしなければならない場合がある。

図6は、よりコンパクトにした液体吹付付与装置を示す断面斜視図である。

【0062】

この液体吹付付与装置A2は、スプレー管1をエアボックス2に嵌め込んで固定する構成とすることでコンパクトな構造になっている。

スプレー管1は、上記の装置A1のスプレー管1と同じ構造であり、装置A1に使用したものをそのまま使えるように設計されている。

【0063】

エアボックス2は、装置A1と同様に、外壁21とその内部にエアパイプ22とを備え、エアパイプ22は支持片24を介して外壁21の内壁に固定されており、外壁21とエアパイプ22との間には空間25が連続して形成されている。

また、エアパイプ22の管壁のうち気流噴射口23とは反対側の位置に貫通した穴26が複数形成されている。

【0064】

さて、本構成例では、スプレー管1を嵌め込むために外壁21を折り返した構造となっているが、その折り返し部近傍を切り欠くことにより気流噴射口23を形成している。

そのため、2列の気流噴射口23が噴霧ノズル11の前後を挟むように平行に形成された状態となる。

【0065】

図7は、液体吹付付与装置A2から液体と気流を噴射した状態を示す模式図である。

このように、装置A2の噴霧ノズル11から噴霧された液体Lは、気流噴射口23から噴射された2つの気流Bに乗り、加速されて走行体Rに確実に吹き付け付与されるのである。

【0066】

因みに、気流噴射口23を噴霧ノズル11の両側でなく、片側のみに形成する

ことも当然可能であり、或いは気流噴射口23を噴霧ノズル11の両側に形成し、必要に応じて一方側を封鎖してもう一方側のみを使用することも適宜行われる。

【0067】

【第3の実施の形態】

抄紙機のドライパートに搬送されたばかりの紙体は、水分を比較的大量に含んでおり、紙体からドライヤロールに対してガム・ピッチやタルク、微細纖維等が転移し易い。

そのため、ドライヤロールにワックス等を含む汚染防止剤や離型剤等を散布する場合があるが、あまり多量に散布すると、逆に紙体に悪影響を及ぼしかねない。

【0068】

このように、抄紙機等への液体付与では、液体の少量（微量）散布が要求される場面も多い。

図8は、こうした少量散布に適した液体吹付付与装置A3を示す斜視図である。

液体吹付付与装置A3は、スプレー管1を含むヘッド部5が走行体の幅方向に往復移動しながら液体を噴霧し、走行体に液体を吹き付け付与する。

【0069】

まず、液体吹付付与装置A3のヘッド部5について述べる。

図9は、この液体吹付付与装置のヘッド部を拡大した図であり、（A）はヘッド部全体の斜視図、（B）はエアボックス2のY-Y断面図を示す（図中の矢印は圧縮空気の流れを示す）。

【0070】

ヘッド部5は、上記の実施形態と同様にスプレー管1とエアボックス2と異なるが、スプレー管1は噴霧ノズル11を1つだけ備える点で異なる。

本構成例では、噴霧ノズル11は、少量散布に適した2流体ノズルを使用するため、スプレー管1には液体注入口15及び気体注入口16が設けられている。

【0071】

スプレー管1は、エアボックス2に嵌合固定される。

エアボックス2には、圧搾空気がエア注入口27を介して注入され、圧搾空気は空間28を充填し、穴29を通って気流噴射口23から噴射される。

図7に示した装置A2の場合と同様に、噴霧ノズル11から噴霧された液体Lは、気流噴射口23から噴射された2つの気流Bに乗り、加速されて走行体に確実に吹き付け付与されることが、図8(B)から容易に理解されよう。

【0072】

次に、こうしたヘッド部5を備えた液体吹付付与装置A3について述べる。

図8に示したように、液体吹付付与装置A3は、上記のヘッド部5のほか、移動ベルト61、駆動モータ62等よりなる。

移動ベルト61は、駆動モータ62により回転駆動されるローラと装置A3の反対端のローラ(ともに図示しない)の間に張設され、2つのボックス部63、63aの間を往復移動する。

【0073】

ヘッド部5の基部51は、移動ベルト6に固定され、移動ベルト6の往復移動に合わせて移動し、液体吹付付与装置A3の長手方向にヘッド部5を往復移動させる。

基部51からはエア供給管52、液体供給管31、及び気体供給管32が立設され、それぞれがヘッド部5のエア注入口27、液体注入口15、及び気体注入口16(図9参照)に連結されている。

【0074】

エア供給管52、液体供給管31、及び気体供給管32は基部51の下方で束ねられ、ケーブルベア64中を挿通されて、装置外部の薬液タンクやコンプレッサ等(図示しない)に連結されている。

エア供給管52等は、移動ベルト61の往復移動に合わせてヘッド部51が移動しても、その動きに合わせてフレキシブルに形状を変化させて追従するケーブルベア64に守られながらヘッド部5に液体や気体(エア)を供給する。

【0075】

さて、以下、この液体吹付付与装置A3を使用して走行体に液体を吹き付け付

与する液体の吹き付け付与方法について、抄紙機のドライヤロールに対してワックスを含む微量の汚染防止剤や離型剤等を付与する場合を例に挙げて述べる。

抄紙機の超高速化でドライヤロールの表面付近にも強い表面流が発生するが、この液体吹付付与装置A3によれば、こうした薬液の微量付与（例えばワックスの固体重量%で10%のエマルジョンを5cc/分程度噴霧）を確実に行なうことが可能となる。

【0076】

液体吹付付与装置A3は、先述した装置A1（図4参照）の場合と同様に、ドライヤロールの幅方向に設置される。

そして、そのヘッド部5が装置の2つのボックス部63、63aの間を2m/分程度の速度で往復移動しながら、ドライヤロールに対して薬液を噴霧し、気流噴射口23から強い気流を噴射して薬液を加速してドライヤロールに吹き付ける。

【0077】

ドライヤロールは通常、80～100℃程度に加熱されており、薬液がドライヤロールの表面に付与されると、薬液中の水分は蒸発し、ワックスは熱で油化し、粘性が小さくなつて表面上に拡散し、ごく薄い油膜を形成する。

ワックスは微量ずつ紙体に転移して消耗されるが、ヘッド部5から薬液が適宜供給されるため、汚染防止効果や離型効果等を持続させることができるのである。

【0078】

この液体吹付付与装置A3を使用した液体の吹き付け付与方法は、上記のようなドライヤロールに対する汚染防止剤（ダスティング防止剤ともいう）や離型剤等の吹き付け付与のみに限定されない。

例えば、カンバスに汚染防止剤や離型剤を付与する際、装置A3を用いて一旦カンバスロール（アウトロール）に吹き付け付与し、このロールを介してカンバスに汚染防止剤等を付与することも可能である。

【0079】

これ以外にも、装置A3を用いれば、抄紙機や加工機等の部材、又は抄紙機又

は加工機を移動する紙体に対して、微量の薬液を有効に付与できることは言うまでもない。

例えば、ヤンキードライヤに対して固体潤滑剤を含む極めて微量の表面修正剤〔例えばメラミンシアヌレート（MCA）を固体重量%で1%含む薬液を2cc／分程度〕を付与する場合があるが、こうした微量付与であっても薬剤（薬液）がほとんど巻き上げられることはなく、吹き付け付与を有効に行うことができる

のである。

【0080】

以上、本発明を説明してきたが、本発明は実施形態にのみ限定されるものではなく、その本質を逸脱しない範囲で、他の種々の変形例が可能であることは言うまでもない。

例えば、液体吹付付与装置A3のヘッド部5を移動しない状態で使用することも当然可能であり、装置A1を設置する代わりに、装置A3のヘッド部5を複数並設して使用することも可能である。

【0081】

また、例えば、紙力増強剤とサイズ剤のように、2種類以上の薬液を混合して噴霧することも当然可能である。

更に、スプレー管やエアボックスは、上記の装置A1、A2、A3に例示したもの以外でも、その機能を発揮しうる限り採用可能である。

【0082】

【発明の効果】

本発明によれば、噴霧ノズルから噴霧された液体に対して気流噴射口から気流を噴射し、液体を加速して走行体に吹き付けることにより、抄紙機等が超高速化しても走行体に対して液体を確実に付与することが可能となる。

また、液体の付与量や抄紙機等の内部のスペースに合わせて装置をコンパクト化したり、單一ノズルを往復移動させるタイプにしたりすることで、液体をより効果的に走行体に吹き付け付与することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

図1は、走行体の幅方向に複数の噴霧ノズルを備える液体吹付付与装置の構成例を示す図であり、(A)に底面図、(B)にX-X断面図を示す。

【図2】

図2は、液体吹付付与装置A1がミストの舞い上がりを抑える状態を示す模式図である。

【図3】

図3は、スプレー管とエアボックスとの固定状態を説明する模式図であり、(A)は密着固定した状態、(B)は間隔を開けて固定した状態を示す。

【図4】

図4は、液体吹付付与装置A1を使用して紙体に液体を吹き付け付与している方法を示す図である。

【図5】

図5は、液体がスプレー管に対して傾斜した状態で噴霧されている状態を示す模式図である。

【図6】

図6は、よりコンパクトにした液体吹付付与装置A2を示す断面斜視図である。

【図7】

図7は、液体吹付付与装置A2から液体と気流を噴射した状態を示す模式図である。

【図8】

図8は、少量散布に適した液体吹付付与装置A3を示す斜視図である。

【図9】

図9は、液体吹付付与装置A3のヘッド部の拡大図であり、(A)はヘッド部全体の斜視図、(B)はエアボックス2のY-Y断面図を示す。

【図10】

図10は、従来の流体散布用流体飛散防止装置を説明する模式図である。

【符号の説明】

A1、A2、A3…液体吹付付与装置

B…気流

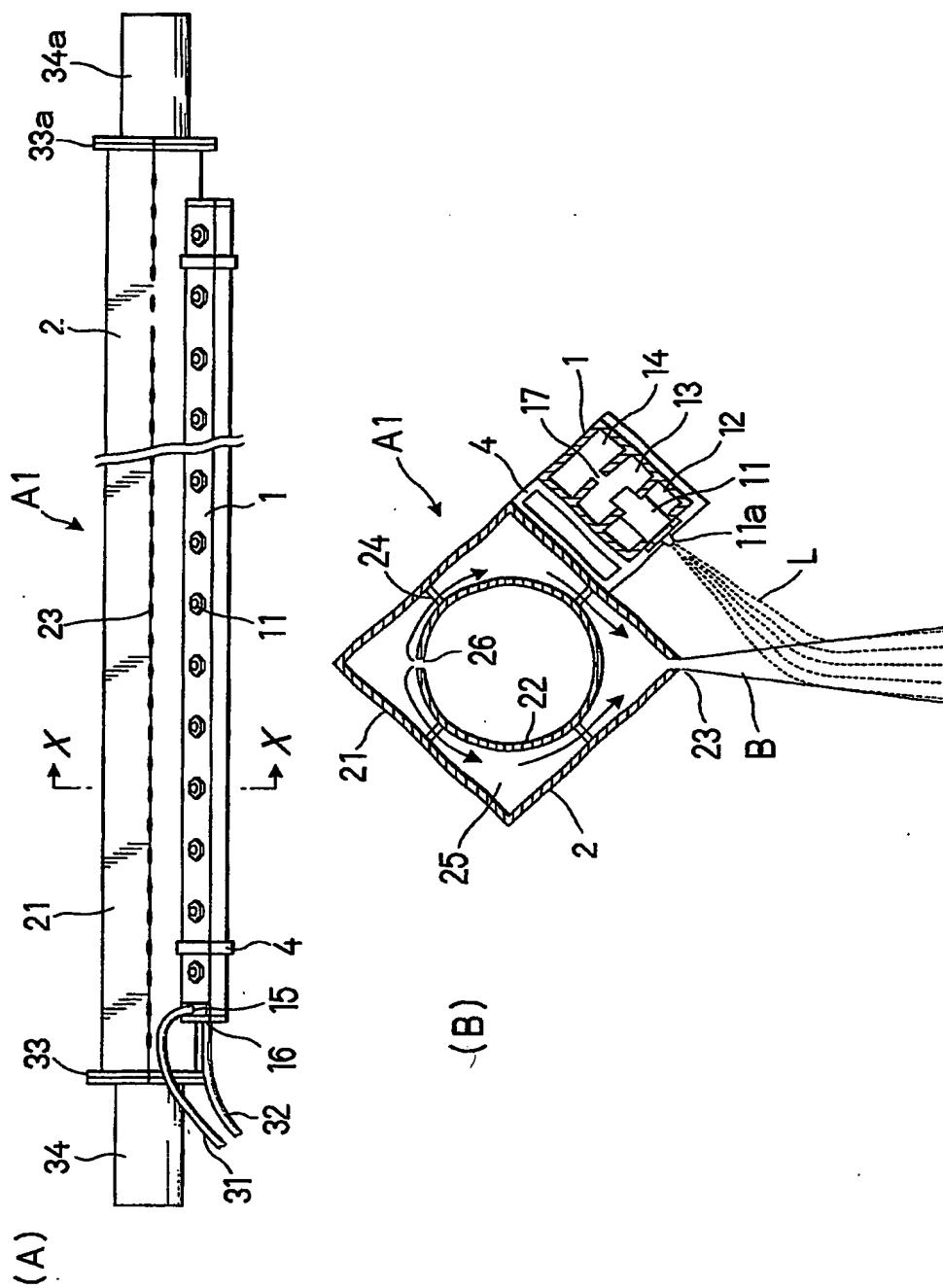
L…液体
m…ミスト
R…走行体
T、T1…随伴気流
1…スプレー管
11…噴霧ノズル
11a…ノズル口
12…液送管
13…気送管
14…圧調整管
15…液体注入口
16…気体注入口
17…穴
2…エアボックス
21…外壁
22…エアパイプ
23…気流噴射口
24…支持片
25…空間
26…穴
27…エア注入口
28…空間
29…穴
31…液体供給管
32…気体供給管
33、33a…フランジ
34、34a…取付パイプ
4…ホルダー
5…ヘッド部

- 5 1 …基部
- 5 2 …エア供給管
- 6 1 …移動ベルト
- 6 2 …駆動モータ
- 6 3、6 3 a …ボックス部
- 6 4 …ケーブルペア
- 1 0 0 …従来の装置
- 1 0 1 …液体
- 1 0 2 …噴出用ノズル
- 1 0 3 …エアカーテン
- 1 0 4 …進行方向
- 1 0 5 …走行体
- 1 0 6 …エアパイプ

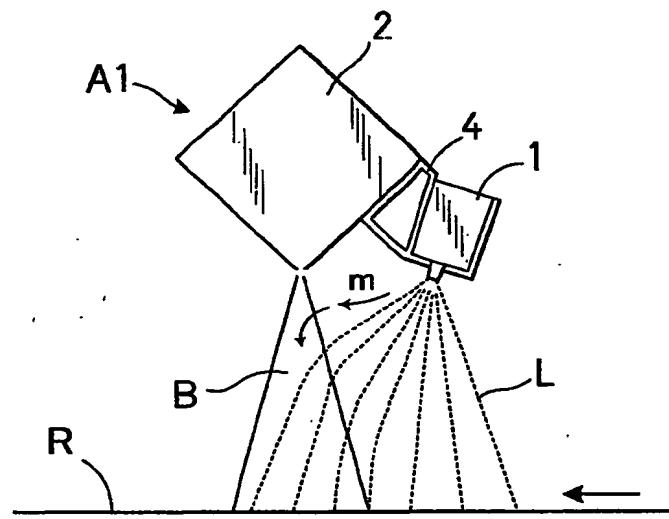
【書類名】

図面

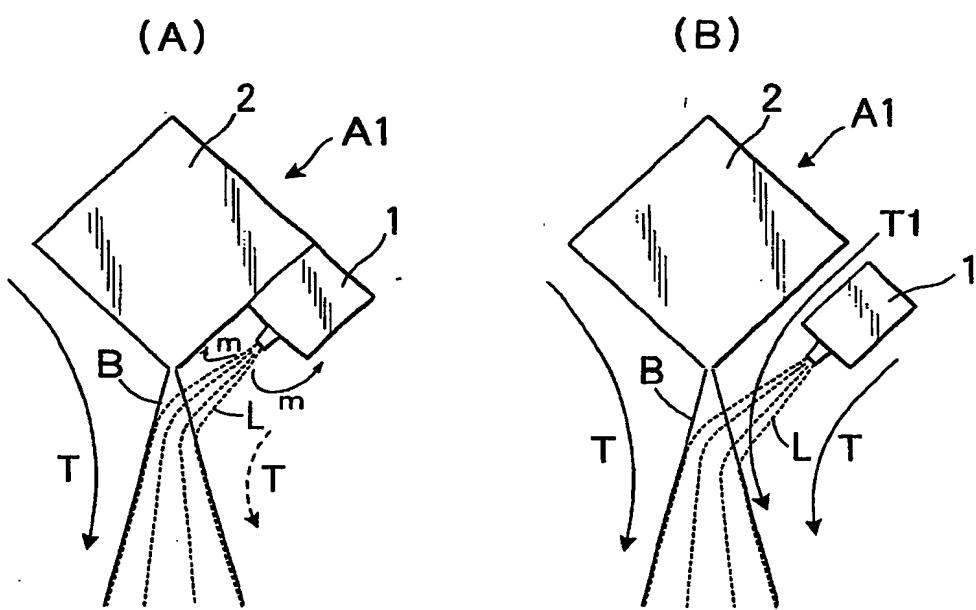
【図1】



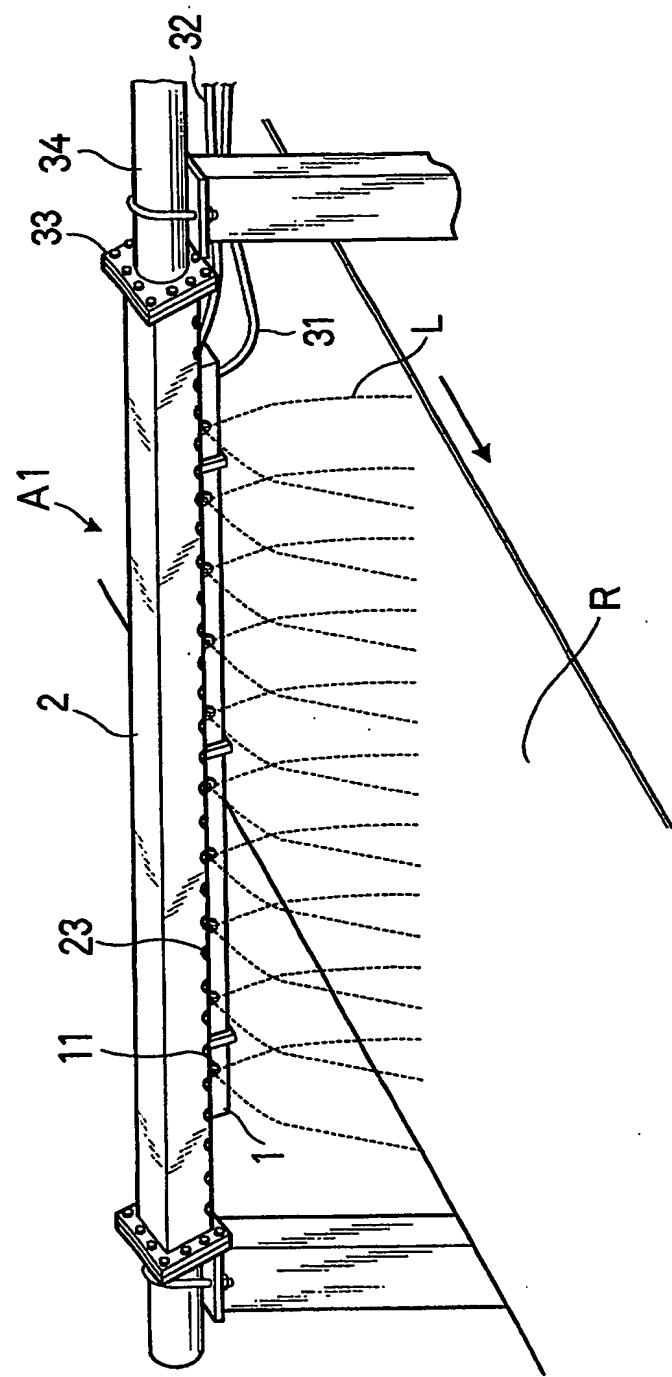
【図2】



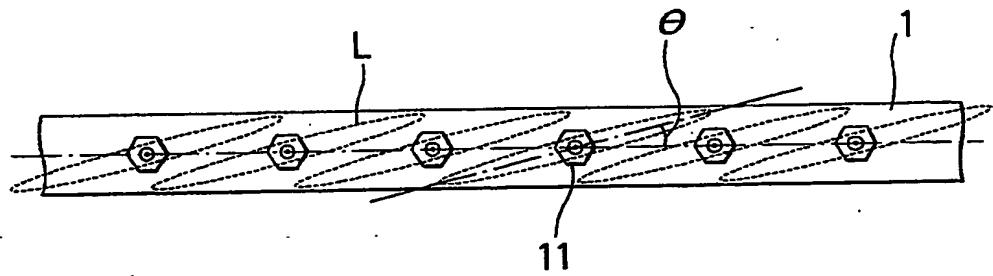
【図3】



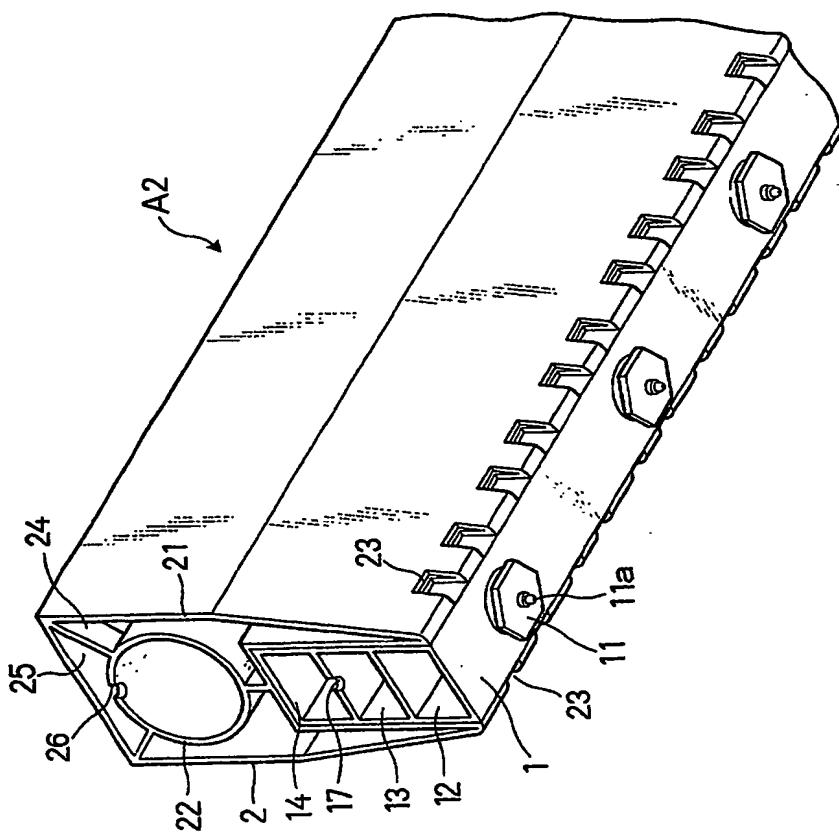
【図4】



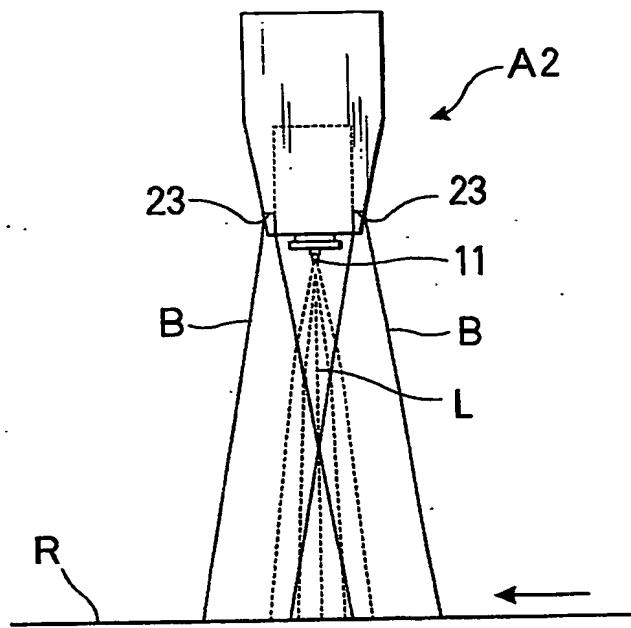
【図5】



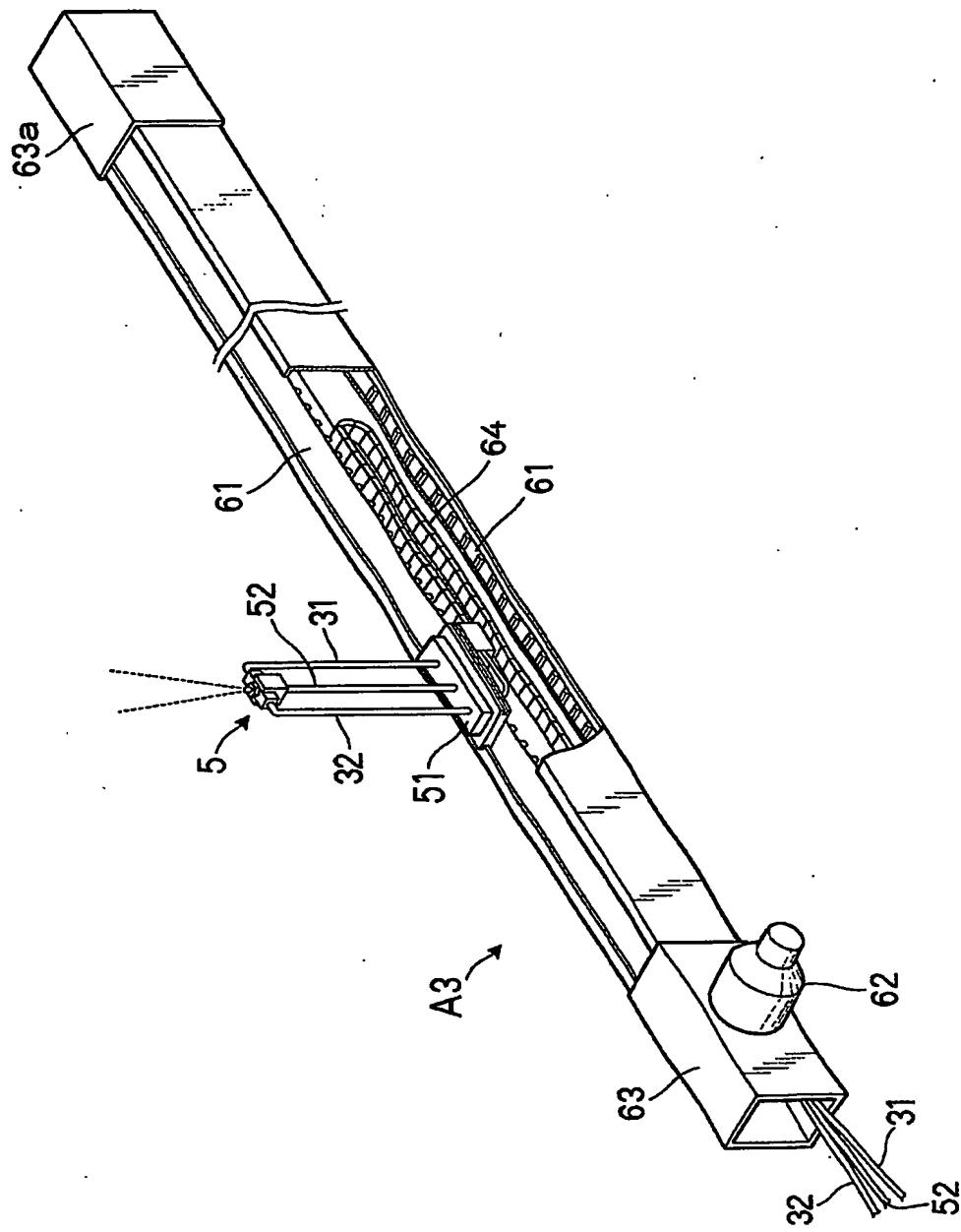
【図6】



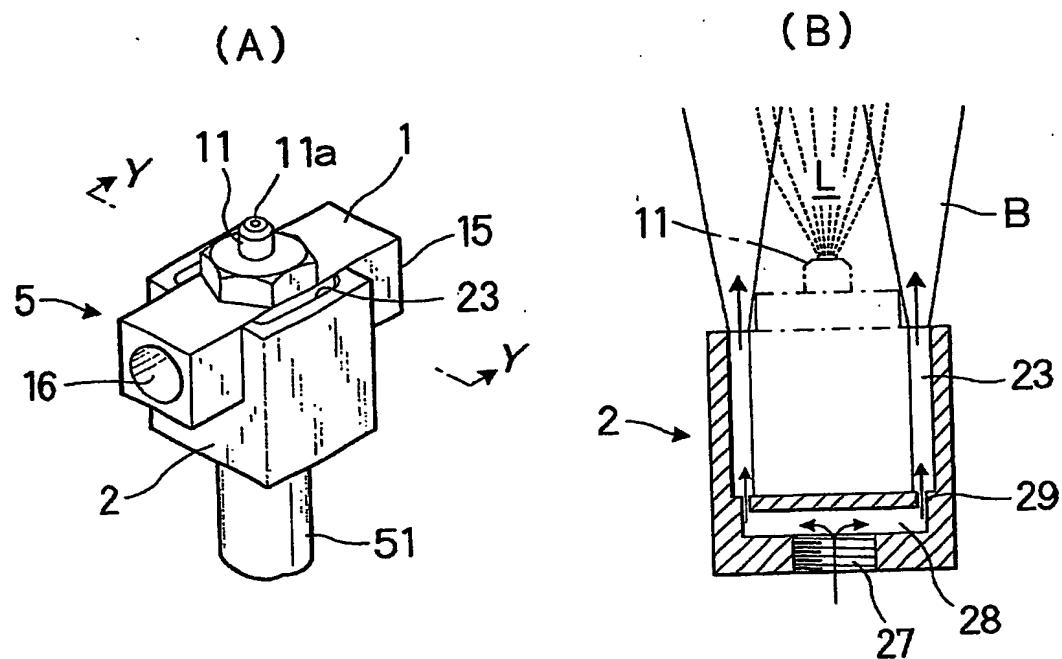
【図7】



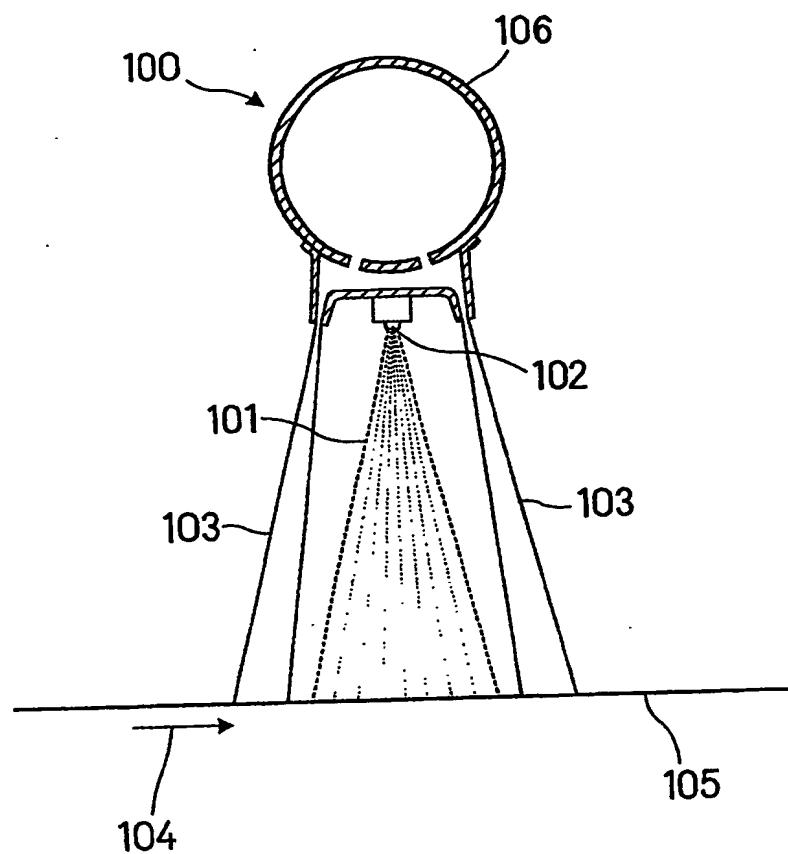
【図8】



【図9】



【図10】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 超高速の抄紙機等においても走行体に対して液体（処理液、薬剤等）を確実に付与することができる液体吹付付与装置を提供すること。

【解決手段】 走行体に対して液体を吹き付けて付与する液体吹付付与装置であって、液体Lを噴霧するための噴霧ノズル11を備えたスプレー管1と、気流Bを噴射するための気流噴射口23を備えたエアボックス2とを備え、該噴霧ノズル11から噴霧された液体Lに対して、該気流噴射口23から気流Bを噴射し、噴霧された液体Lを該気流Bで加速して走行体Rに吹き付けることができるよう、スプレー管1及びエアボックス2が配置されている液体吹付付与装置。

【効果】 液体の付与量や抄紙機等の内部のスペースに合わせて装置をコンパクト化したり、単一ノズルを往復移動させるタイプにしたりすることで、液体をより効果的に走行体に吹き付け付与することが可能となる。

【選択図】 図1

出願人履歴情報

識別番号 [594020802]

1. 変更年月日 1993年12月28日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都豊島区長崎1丁目28番14号

氏 名 株式会社メンテック